

関ヶ原（大野恵造）

霧深き 慶長五年 九月十五日の 朝まだき

芒生う 野山に 陣を 張るは

総勢 八万の 西軍

これを 邀え 撃たんとて 備を 固むるは

七万 五千の 東軍 驚破や 驚破

烽火 拳がり 法螺貝 鳴る

旗指物は 揺れ動き 喊声は 地を 這いて

殺気 山野に 漲り わたる

この 一戦こそや 天下 分け目の 関ヶ原

天下 分け目の 関ヶ原

解説 関ヶ原の戦いを描いた詩。

語釈 ※関ヶ原Ⅱ岐阜県不破郡関ヶ原町を主戦場として行われた野戦。

※朝まだきⅡまだ夜が明けきらない時。 ※西軍Ⅱ石田三を筆頭とする軍。

※東軍Ⅱ徳川家康を筆頭とする軍。 ※驚破Ⅱ驚くこと。びつくりすること。

※旗指物Ⅱ戦国時代に戦場で用いられた小旗または飾物。 ※喊声Ⅱ大勢で突撃をする時などにあげる、わめき叫ぶ声。ときの声。 ※天下分け目Ⅱ天下を取るか取られるかの分かれ目。勝負のきまる大事な時期・場面。

通釈 慶長五年九月十五日の、まだ夜が明けきらない時。芒が生えている野山に陣を張った総勢八万の西軍。是を迎え撃つ為の準備を固めた七万五千の東軍。烽火が上がり、法螺貝がけたたましく鳴る戦場。兵士が持つ旗は揺れ動き、喊声は地を這う如くうなり、殺気が山野に漲り渡る戦いは、天下分け目の一戦である。